

## 時代を読んでいく

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

今年は『亥年』ですね。厳密にいうと『<sup>つちのと</sup>己亥年』です。干支は『十干』と『十二支』が組み合わせり、60通りあります。（詳しくは調べてみてください。）と、いうことは、60年に一度しか同じ干支にならないということです。

では、60年前はどのような年だったのか。今から60年前の1959年、日本は高度成長期の真っ只中でした。また、天皇陛下と皇后陛下が成婚された年でもあります。それから60年後の2019年、新しい年号に変わることになります。この60年の間、いたるところでさまざまな変化が起きています。

時代が変化していく中、私たちは時代に順応して生活していかなければなりません。同じ事を繰り返して生活するのではなく、走っていく時代を追いかけ、世に出回っている情報を正しく捉えて活用していく力が必要となります。ときには時代を先読むことも必要となるでしょう。自分の目でしっかりと捉えていける年にしてください。

干支の話に戻りますが、今年の干支は【己】と【亥】で組み合わせられています。【亥】は、【核】という意味も持っています。

【己】の【核】は何なのか。あなたの【核】はなんですか？どんなことでなら勝負できるのか、少し見つめなおすときではないでしょうか。みなさんの中にある【核】をしっかりと磨き、さまざまことに挑戦してみてください。



## これからが勝負だ！！！！

今年の年末年始は元日以外全て学校に来て勉強する生徒がいた。西成高校生では、実に8年ぶりのセンター試験に挑む生徒だ。

彼は2年の春から勉強を始めた。「俺ならできる。」当初は思っていた。しかし、その年の夏、外部で受けた模試に打ちのめされた。試験が解けなかったからではない。試験会場に集まった受験生たちの「凄さ」に圧倒されたのだ。鉛筆を持つ手が進まない自分。

一方で、黙々と80分間、手を動かす周囲の受験生たち。——かなわない。こんな空気ははじめてだ。同じ土俵に立つなんて出来ない。

現実を知った彼は、一度は、その土俵から降りた。遅刻や欠席も増えた。成績もさがった。しかし、その鬱屈とした日々を超えて、彼はもう一度、受験することを決意したのだ。

再び鉛筆を握りなおす。それから毎日、平日の放課後、土日の休みの日にも学校で勉強に取り組んだ。勉強することは、自分を知ることだと学んだ。世界が広がっていく感覚を楽しめるようになった。解ける、分かる、そのおもしろさは存外に楽しいものだと思った。

センター試験は1月19日土曜日。決戦の日だ。まだ、進路に向かって頑張っている生徒もいることを諸君は知らなければならない。そして、自分もこれから何をしなければならぬか考えていこう。



## ふるさと（式歌）

卒業式に歌う「ふるさと」。毎日、朝と放課後に練習しているが、諸君はどのような気持ちで歌っているだろうか？

私は毎年、年末に故郷に帰省する。故郷の高校を卒業し、大阪の地に来て10年以上になるが、故郷の町並みの風景、においては本当に居心地が良い。今現在、大阪で思いっきり生きていけるのは、故郷の存在があるからだ。そして、私が3年間通った高校生活は、故郷で生きてきた18年間の中で自分を成長させてくれた時間となった。諸君もこの3年間で培ったものは大いにあると思う。それは先生から教わったものだけではなく、友人との生活、地域の方々など、この曲を歌うときにさまざまな「ふるさと」が走馬灯のように駆け巡っているはずだ。高校生活はあと3ヶ月もある。思いのこもった歌を歌うために、残りの学校生活を一生懸命に過ごそう。